

I know 『Shall we ダンス?』

周防正行

1996年1月に日本で公開された映画『Shall we ダンス?』は日本国内で日本映画としては珍しく大ヒットしました。そして、アメリカでの公開もすぐに決まったのですが、それも日本映画にとっては異例のことでした。

アメリカで公開され成功した日本映画は黒澤明監督作品や伊丹十三監督作品などほんの数本しかありません。

日本の特殊なサラリーマンや社交ダンスを扱った私の映画がアメリカでどのような評価を受けるのか、とても楽しみでしたし、不安でもありました。

結果は、日本映画としては過去最高の大ヒットを記録し、たくさんの賞もいただくという、大成功でした。

私が一番驚いたのは、アメリカの観客の反応が日本の観客の反応とほとんど変わらなかったことです。つまり、主人公の中年ビジネスマンに感情移入し、その生き方に共感を覚えてくれたのです。笑うところが一緒なら、泣くところも一緒です。日本の文化の特殊性がアメリカ人の興味をひいたのではありませんでした。現代の日本人が抱えている問題が、そのままアメリカ人の問題でもあったということです。

アメリカのマスコミはこの映画のテーマは「ミッドライフ・クライシス (midlife crisis) であると言いました。日本語にすれば「中年の精神的危機」といったところでしょうか。映画が成功した理由の一つは日米のテーマの共通性だったのです。

そしてもう一つ、大きな理由がありました。

「暴力とセックスのない映画をありがとう」

私はアメリカで試写会に立ち会う度に、そう観客に感謝されました。新聞や雑誌にも必ずといっていいほど、「誰でもが安心して楽しめる映画」と書かれました。それは今、アメリカで作られている数多くの映画が「暴力とセックス」に溢れているということを示しています。私は監督として、必ずしも暴力やセックスを扱うことが悪いことだとは考えていません。むしろその二つは人間にとってとても大きなテーマであると考えています。ただ、あまりにも安易に「暴力とセックス」が扱われていることは確かでしょう。

私はアメリカでの成功を通じて、確実に世界が狭くなっていることを実感しました。日本の問題は、もはや世界の問題なのです。同じように世界のどの国の問題も、日本の問題なのです。今、国境は地図の上だけの存在になりつつあるのかもしれない。

(映画監督)

表紙エッセイ

I Know 『Shall we ダンス?』

周防正行 (映画監督)

I Know "Shall We Dance?"

SUO Masayuki (Movie Director)

読者から

From Our Readers

新任のごあいさつ

Inaugural Address

国際交流基金会員募集について

OTSUKA Yoshihito (Deputy Director of The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

表紙エッセイストプロフィール (周防正行)

教育実践レポート⑧高等学校教育

Japanese Language Teaching Around the World

楽しく分かりやすい授業を目指して

⑧Japanese-Language Education in High School

韓国・ソウル市内 光栄女子高校

Aiming for Easy and Fun Japanese Classes

趙 美淑 (光栄女子高校日本語教師)

Kwang-Young Women's High School in Seoul, Korea

Cho Mi Sook (Kwang-Young Women's High School Japanese teacher)

報告

Report

関西で日本語を学ぶ

Learning Japanese in KANSAI Western Region in Japan

国際交流基金関西国際センター紹介

The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

初・中級 写真で見る日本人の生活

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

日本のいろいろな店

Various Kinds of Shops

日本語を研究する

Research on the Japanese Language

第8回 第二言語習得研究と
日本語教育研究

Studies in Second Language Acquisition &
Japanese Language Education

ことばの習得研究: 目的・領域・方法

OKAZAKI Toshio

岡崎敏雄 (筑波大学教授)

(Professor, Department of Literature & Linguistics,
University of Tsukuba)

初級 授業のヒント

Beginning Hints For Teaching the Japanese-Language

なぜなぜ・クイズ(2)

Riddles and Quizzes (2)

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

Book Shelf : Introduction of New Titles

海外日本語教育Q&A

Overseas Japanese-Language Education Q&A

ニュース・編集部から

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

読者から

前略御免下さいませ。

いつも『日本語教育通信』を送っていただきありがとうございます。

当校はニュージャージー州にある公立高校の中でも大きな方ですが、95%が白人のプロテスタントでアジア系の生徒はおるか、住民もほとんどいない特別な地域です。『日本語教育通信』に掲載されているニュース、教材のヒントなど、役に立つものが多く感謝しております。

(米国 Southern Regional High School District of Ocean County 小島恒子)

センターの先生方、お元気でいらっしゃいますか。

上海大学(前上海工業大学)の李曉光でございます。送ってくださった『日本語教育通信』を拝読する度懐かしく、

1994年に受けた研修を思い出します。

現在、中日文化、経済交流は上海で一層盛んになり、日本語を勉強する学生も増えています。卒業してから日系企業に就職を希望する学生が多く、在校の日本語科、日本語を必修科目、選択科目とする学生はみんな一生懸命勉強しています。

「現代日本事情」はいきいきした教材と言えます。学生は先生の説明を聞きながらグラフと写真を見て、いろいろな面から行ったことのない日本を体験できるような気がします。

会話の授業にはいつも「授業のヒント」を使い、効果を上げています。クラスが楽しい雰囲気になり、学生の興味を引くことができます。(中国 上海大学 李曉光)

「現代日本事情」は25号から「写真で見る日本人の生活」にコーナー替えをしています。

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

新任のごあいさつ



国際交流基金日本語国際センター副所長
大塚 善人（おおつか よしひと）

安田文夫前副所長の後任として、昨年11月20日日本語国際センター副所長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

日本語国際センターは、1989年に設立されましたから、今年で9年目になります。この間、外国人日本語教師研修を主な業務として、海外から多くの日本語の先生を招き研修を実施してきました。この『日本語教育通信』の読者の中にもすでにこのセンターに来られた人も多いことと思います。センターでの生活はいかがだったでしょうか。きっと東京近郊浦和市での生活を十分楽しめたことと思います。

語学の勉強というものは、それだけでは味気ない困難な作業です。しかしながら、それにより、友人ができ、その国の歴史や文化を知り、その国の生活を楽しむ中で、段々と面白くなっていくものだと思います。

私もフランスに通算10年住みましたが、最初は、フランス語の勉強に追われ、フランス文化を楽しむ余裕はありま

せんでした。ある程度余裕ができてくると、今度は、両者の文化の違いに随分驚くことも多くありました。その後、長くフランスに住むうちに、文化の外観は大いに違いますが、日本人もフランス人もそんなには違わないと思うようになりました。そして、「お互いそんなに違わない」ということを知ることが結局は国際文化交流という仕事のめざすところなのかな、と今考えています。

また、文化交流の仕事をしてきて一番感じるのは、平和ということの大切さです。世界が平和でなければ、お互いの国・民族の文化を理解することは容易ではありません。第二次大戦後50年の平和のおかげで、各々の文化の相互理解は、少しずつですが、確実に深まっていると思います。日本の文化に関しましても、昔に比べたら、比較にならない程世界の人々に知られて来ましたし、また、私たちは、今まで良く知らなかったインド、インドネシア、タイなどのアジアの文化についても様々な面から知ることができるようになりました。

このような世界の文化交流の大きな流れの中で日本語国際センターも小さな役割ですが、日本語を媒介とした確固たる役割を果たして行きたいと考えています。

世界の日本語教師の研修、教材の開発、情報ネットワークの構築等様々な事業を通じ、また、海外7カ所に設置された海外日本語センター、更には、昨年開設された関西国際センターとも連携して、少しでも海外でご活躍の日本語の先生方のお役に立つべく努力していく所存です。当センターは設立後わずか9年のまだまだ若い未熟な組織です。当センターに対して皆様から御要望・御批判等ご遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

国際交流基金会員募集について

国際交流基金では、国際文化交流事業の一層の発展・普及のため、皆様よりのご支援をお願いしております。

中でも、年会費として一定額のご寄付をお願いする会員になっていただきますと、定期刊行物の送付や図書館のご利用、催しへのご案内など様々な特典がございます。

今年1月より、これまでの「賛助会」に加え、新しく「友の会」が発足しました。「賛助会」(個人一口2万円、団体一口10万円)にご入会の方には、機関誌「国際交流」の定期送付、一部の公演・展覧会・レセプションなどへのご招待等の特典がございます。「友の会」(個人のみ、一般4千円、学生2千円)にご入会の方には、基金の活動を定期的にお知らせする「国際交流基金 NEWS」の定期送付や催しのご案内を通じ、国際交流に関する様々な情報を提供いたします。詳しくは、右記までお問い合わせください。

当基金の様々な活動をご理解いただき、ご支援・ご協力をいただきますよう、多くの皆様のご入会をお待ちしております。

なお、当基金は特定公益増進法人に指定されており、ご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ：国際交流基金経理部資金課

TEL .03 5562 3519 FAX .03 5562 3496

表紙エッセイプロフィール

周防正行(すおうまさゆき)

大学在学中から映画制作に携わり'84年に映画監督としてデビュー。'92年の『シコぶんじゃった』と'96年の『Shall we ダンス?』が大ヒット。特に『Shall we ダンス?』は昨年、全米でも公開され好評を博した。

楽しく分かりやすい授業を目指して

韓国・ソウル市内 光栄女子高校

光栄女子高校日本語教師 **趙 美淑**
Cho Mi Sook

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 はじめに

1973年に高校で第二外国語として日本語の教育が始まって今年で25年目になる。その間、何回も教育課程(カリキュラム)が変わったが、今年は第6次教育課程の3年目である。第6次教育課程では、過去の文法中心の指導から会話の流暢さを伸ばすことに目標が変わった。しかし、現在の教育環境では、意思疎通(コミュニケーション)ができるように会話能力を高めるには難しいところがある。問題は学習者が多すぎる(1クラス54~56人)こと、狭い教室、乏しい視聴覚教育環境、入試中心の教育などである。

難しい環境にもかかわらず、教師たちは新しい教科書を使って学習者に合わせた指導をするために、さまざまな問題点の解決を図っている。コースデザイン、教授法、補助教材、学習者の席の配置、教師同士の情報交換や勉強会などを通じて努力している。

2 学校紹介

光栄女子高校は1985年に開校したソウル市内の私立高校で、進学校(人文系)である。学級数は全校36クラス(各学年12クラス)、生徒数は1,925名(1年645名、2年639名、3年641名)である。

韓国の普通の高校(人文系)では、第二外国語(フランス語、ドイツ語、中国語、日本語、スペイン語、アラビア語、ロシア語)の中から二カ国語を選択して教えるのが一般的である。しかし、本校では日本語だけを選択している。

日本語の授業は、1年生(週1時間)、2年生(週2時間)、3年生(週2時間)の授業を3人の教師が分担している。本校は進学校なので生徒は大学入試を目指して勉強している。現在、日本語は大学入試科目に入っていないので、入試科目と比べると関心が低い。

3 カリキュラムと教師研修

本校では3年間で2冊(『日本語上・下』)の教科書の内容を指導する。教育課程が変わると教科書も新しく変わる。教育課程が決められる前には公聴会が2、3回あり、その公聴会の結果を参考にして教育課程の内容が決める。教育部¹は教育課程に合う教科書を審議して決める。学校は決められた教科書(現在12種類)の中から1種類を選択する。たくさんの日本語教師が公聴会に出席して意見を発表する。

新教育課程の指導内容と教授法は、ソウル日本語教師研究会主催の研修(年2回)に参加して勉強する教師が多い。'96年の冬休みには、教授法とモデル授業の研修が行われた。また、'97年の夏休みには、学校での授業の時感じたことを発表したり、もっといい授業のための情報交換をしたり、さまざまな教え方の研修があった。

昨年(1998年)の9月から12月の間には、希望した教師たちによるモデル授業発表大会もあった。授業発表大会で受賞した教師は、次の研修会の時に発表することになる。研修会には日本文化院²の支援があったり、文化院の教育専門家から協力を得ている。

その他にも日本文化院には、高校日本語教師のための一般講座(週1回)、集中講座(夏休み1週間、冬休み1週間)があり、韓国の日本語教師たちが参加して勉強している。また、夏休みには、国際交流基金主催の日本語教育巡回セミナー(2日間)が行われたりする。

これらの研修と講座に参加した教師は自分の学校に戻って楽しい授業をしている。本校の教師(3人)も研修で勉強した教授法を学習者に合わせて活用している。

情報交換としては近くの学校の日本語教師の集まり(毎月1回)があり、新しい教科書と教材、実際の授業での経験を話し合ったり、いい教え方や新しい情報やア

1 日本の文部省に当たる。The ministry of education

2 正式名は、在韓国日本大使館公報文化院。

助教材を使おうと努力している（「5. 使用教材」の章を参照）。動詞変化と数字は、歌を歌いながら覚えさせる方法が効果的であった（資料3）。聞くことは、教科書のカセットテープと『しんにほんごのきそⅠ』（スリーエーネットワーク）のビデオテープを使う（「5. 使用教材」の章を参照）。読むことは、漢字にルビをつければ3～4人くらいを除いて読むことができる。

資料3 歌で習いましょう（数字）

十人のインディアン

しんにほんごのきそⅠ

2年生も1年生と同じで、新しい文法と授業の内容をはっきりと理解していない時は、グループ内の生徒同士で相談する。どうしても理解できない場合は、教師がグループのレベルに合わせて説明する。時間が足りない時は、宿題ノートに書かせて個人的に説明する。グループの発表は毎学期1～2回ある。テーマと形式は自由で、内容は1年生から現在までに習った言葉で書く。もちろんセリフは覚えて発表する。優勝したグループには賞品をあげたり、日本文化院で上映している映画を見せたりする。

もう一つの方法としては、全グループに同じテーマ（電話、自己紹介、案内、趣味、買い物）で20分くらいグループ内での練習をさせ、その後20分で実際の場面のロールプレイ（グループ別大会）もさせる（右の写真）。このような授業は復習に効果があった。

3年生は、大学入試の科目に入っていない日本語の勉強はあまりやる気がない。教育課程では『日本語下』（「日本語能力試験3級」のレベル）まで教えることになっている。しかし、内容はだんだん難しくなり、生徒はやる気がなくなってしまうので、進度通りに進めるには無理がある。それで本校では『ヤンさんと日本の人々』（本とビデオ、国際交流基金日本語国際センター企画・制作、ビデオ・ペディック発行）を教材として、1、2年生の時に習ったことを復習している。

写真 2年生の授業：実際の場面でロールプレイする（買い物の場面）



日本事情と文化については、『ようこそ日本へ』（ビデオテープ、スリーエーネットワーク）、『写真パネルバンクⅣ・行事シリーズ』（国際交流基金日本語国際センター企画・制作、日本出版貿易発行）を学期末の2月に紹介する（1、2、3年生）。

5 使用教材

本校は教育部が審議して決めた教科書の一つ『日本語』（이인영, 이종만 著、金星教科書）をテキストとして使っている。3年間で2冊の教科書を教えるには、その内容が多すぎる。生徒の数も多いし、レベルの差も大きいので、教材はいろいろあればあるほどいい。

ひらがなとカタカナの指導は、絵カードを作って使う。絵カードは見るとすぐ覚えられ、文字と絵を連想してなかなか忘れないという効果もある。今年の新学期からは、

文字と語彙力を高めるために『BITS and PIECES 日本語教材・アクティビティ集』(講談社)を初めて使っている。さまざまな教材を使うことによってグループの創造力が出てくるし、授業も楽しくなると思う。ドリルは『ドリルとしてのゲーム教材50』(アルク)、『クラス活動集101』(スリーエーネットワーク)を使っている。聞き取りは『わくわく文法リスニング99』(凡人社)の中から教科書の内容と同じものを選んで聞かせる。ビデオは1、2年生は『しんにほんごのきそ』、3年生は『ヤンさんと日本人々』を見ながら、聞くことと場面の理解、および自然な会話を身につける。

また、『歌で習いましょう』('96ソウル中等日本語教育研究会資料)は学習者の興味を高めると思う。歌で習う授業はとても楽しくなり、簡単な文法は覚えやすい。

いい教材は学習者にも効果的であり、授業もダイナミックになり、実際の場面で話せるようになる。現在使っている教材は、ソウル日本語教育研究会が韓国の日本文化院から寄贈していただいたものである。今までの教材による授業は学習者のレベルによって違うが、初めは難しいと思った学習者も何回もくりかえして練習したらよくなるようになった。

6 教育効果

クラスの生徒数も多すぎるし、個人差も大きいので、生徒が満足できない授業になりがちなのが大きな問題である。それで、本校では、生徒たちをグループに分けてその解決を図っている。初めは大騒ぎというか、うるさくて勉強できないくらいである。

しかし、時間が経てば経つほど学習者は積極的になり、創意的になってくるのが感じられる。レベル別に席を替えることによって、ある程度学習者の出来具合に合わせて進むことができる。その結果、興味を持たない生徒もやる気のない生徒も少なくなった。また、グループの生徒同士はお互いに助け合いながら親しくなり、全てのグループが授業に参加するようになった。授業内容もすぐ理解できるし、授業以外の時間でも、会話の相手と練習することができる。授業中にも、実際の場面を設定して会話指導(ロールプレイ)をしやすい。学習者の会話能力も高くなっていく。

しかし、全く問題がないわけではない。足りない語彙と文法知識では、できない表現が多いし、表現してもよく間違ふ。教師は学習者が中途半端に会話しないように、学習者の能力を詳しく把握しなければならない。ますます学習者が自信を持って勉強するように、レベルに合う

指導が大事である。また教師も会話能力を高めるために努力しなければならない。

7 今後の課題と展望

21世紀の若者たちはいろいろな言語を習い、その言語を通じてその国の文化を理解し、世界の人たちとつながりを保つたろうと思う。国籍の意味よりも、相手の文化を理解して、お互いに協力し、共存する人間をどのようにして育成するかが、21世紀の世界の教育目標だと思う。このような観点から見ると、韓国での日本語教育も、会話能力と日本文化の理解を高めるようになっていくと予想する。

現在、その数は少ないが、生徒の中には日本の歌と漫画に接している子供もいる。韓国の新政府も日本文化の解放に肯定的である。日本文化の理解のために、日本語の教師として韓国の青少年をどのように手助けしたらよいかというのも課題である。

韓国の高校では第6次教育課程が2001年に終わり、2002年から第7次新教育課程が始まる。その計画案を見ると、語彙の数は少ないが、実際の場面でよく使えるように流暢さを伸ばすことが目標である。

本校では、時代に合わせて新しい機材を設置して、昨年から2年生の教室ではコンピュータ、ビデオ、インターネット、教材提示装置、OHPなどの機材が使えるようになった。機材の活用によって教育効果が高まったと思う。

過去より教育環境がよくなるにつれ、教師も新しい機材の使い方を身につけなければいけない。新しいプログラムを開発する能力も要求されている。新しい変化に適應するために、日本語の教師は研究と努力を続けなければならない。会話中心の教育なので何よりも教師の会話能力を高めるための努力と研修が必要である。そして、日本文化にも関心を持ち、日本文化開放の時代を迎えて生徒たちの指導をいかにするべきかを工夫しなければならない。

時代と生徒は変わってもいつも楽しく授業をする幸せな教師になりたい。

光栄女子高校スタッフ				
学 園	長 孫 光 鉢	日本語教師	金 容 載	
	がく えん ちやう	Son Kwang Su	にほんごきょうし	Kim Young Jai
校 長	長 黄 昌 燮		申 熙 宅	
こウ	ちやう	Ilwang Chang Sub	Shin Hec Tack	
教 頭	姜 秉 岐		趙 美 淑	
きやう	どう	Kang Byoung Kec	Cho Mi Sook	



報告

関西で日本語を学ぶ

国際交流基金関西国際センター紹介

関西国際センター（The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai）の概要については、

『日本語教育通信』第26号で紹介しましたが、今回は関西国際センターの研修内容を中心に紹介します。

関西国際センターは昨年1月、関西国際空港の対岸、りんくうタウン（大阪府田尻町）に開設されました。

日本語国際センター（埼玉県浦和市）と同じく、宿泊設備をもつ日本語研修のための施設です。日本語国際セン

ターでは海外の日本語教師を対象とする研修を行っていますが、関西国際センターでは日本語教師以外の職業人

や研究者等を対象とした「専門日本語研修」と一般の日本語学習者を対象とする「日本語学習奨励研修」を行っ

ています。

研修プログラム

「専門日本語研修」「日本語学習奨励研修」には、次のような研修プログラムがあります(かっこ内は研修期間)

専門日本語研修 program for specialists

- 外交官日本語研修 (9カ月)
- 公務員日本語研修 (9カ月)
- 司書日本語研修 (6カ月)
- 研究者日本語研修 (9カ月)
- 大学院生日本語研修 (2カ月または4カ月)

日本語学習奨励研修 program for students

- 日本語成績優秀者研修 (2週間)
- 日本語履修大学生訪日研修 (1~2カ月)

なお、印の3研修は'97年まで浦和のセンターで実施していたプログラムです。

研修参加者は職業もさまざまで、日本語の学習目的や使用ニーズも異なります。センターでは以下の基本方針にもとづき各研修のカリキュラムを作成しています。

- 学習者中心の言語教育
- 専門に応じた日本語カリキュラム
- 個別対応・個別学習重視
- 自律的学習方法修得の重視
- 施設外の実社会を学習の場とする言語学習

本稿では、関西国際センターで新しく開始した三つの研修について以下で詳しく紹介します。

公募プログラムの申請方法

関西国際センターで行っている日本語研修のうち、公募のプログラムは、「司書」「研究者」「大学院生」の三

関西国際センター研修プログラム一覧(新規事業)

1998年3月現在

研修プログラム	対象・人数	募集方法	研修の概要	期間	研修内容	実施期間(1998年度)
公務員日本語研修	対日関係を専門とする外国政府公務員等(外交官を除く。) 10人	基金海外事務所・在外公館の推薦	外国政府の対日関連部署等において職務上必要な日本語能力を養うとともに、日本社会と文化の知識を深めるための体験、講義等を実施する。	9カ月	日本語(初級~中級) 日本文化社会概論、各論(日本の政治、日本経済等) 日本の官公庁の視察、体験学習	'98.10~'99.6
研究者日本語研修	海外で日本に関する研究を実施している者(海外の大学の講師、博士課程在籍者、研究所の研究員等。社会科学系分野優先。) 15人	公募	日本語で日本研究をおこなうため専門書や新聞等の読解、テレビ等メディアの理解、レポート等の作成、研究会での発表能力などの日本語能力を養う。日本社会と文化の知識を深めるための体験、講義等を実施する。	9カ月	日本語(中級~上級) 専門分野に関する研修(日本の大学教官・研究者による講義、討論)	同上
大学院生日本語研修	日本研究を専門とする海外の修士課程大学院生(社会科学系分野優先) 80人 標準コース(2コース) 40人(各コース20人) 夏期コース(1コース) 40人	公募	研究活動に必要な日本語運用能力に焦点を当て、「話す」「読む」「書く」「聞く」の4技能を総合的に扱い、各能力の向上を図る。日本社会と文化の知識を深めるための体験、講義等を実施する。	標準コース 4カ月 2コース 夏期コース 2カ月	日本語(中級) 日本文化社会各論講義 日本社会体験(各地視察)	'98.9~'98.12 '99.2~'99.5 '98.7~'98.8

研修カリキュラム概要

研修参加者国別一覧 1998年3月現在

研修名	主な科目名	内容	時間数	備考
公務員日本語研修 (30週間)	総合日本語	文法・会話・漢字・聴解	280	必修
	ビジネス・コミュニケーション	会話・待遇表現	60	必修
	情報収集技能	聴解・読解・ワープロなど	120	選択
	タスク・ワーク	会話・センター外活動	30	選択
	調査実習	専門職務調査、人脈づくり	30	選択
	学習カウンセリング	個別指導、カウンセリング	30	必修
	文化社会研修	講義、見学、ゼミ	50	選択
		合計	600	
研究者日本語研修 (30週間)	総合日本語	会話・文法・漢字・聴解	366	必修
	学習カウンセリング	個別指導、カウンセリング	30	必修
	個人プロジェクト	研究発表のための調査	56	必修
	分野・個人別読解		63	選択
	日本語補習	文法・漢字・古文・漢文	117	選択
	作文・発表		54	必修
			合計	686
大学院生日本語研修 ・標準コース (12週間)	総合日本語	会話・文法・漢字・聴解	145	必修
	学習カウンセリング	個別指導、カウンセリング	15	必修
	文化社会研修	講義、見学	45	必修
	個人プロジェクト	論文作成のための調査	35	必修
		合計	240	
大学院生日本語研修 ・夏期コース (7週間)	総合日本語	会話・文法・漢字・聴解	100	必修
	発表のための日本語	研究発表のための調査	20	必修
	学習カウンセリング	個別指導、カウンセリング	10	必修
	文化社会研修	講義、見学	20	必修
		合計	150	

国名	公務員	研究者	大学院生	合計
韓国	1	3	11	15
中国	0	3	11	14
(香港)	0	0	3	3
モンゴル	1	0	0	1
インドネシア	0	0	4	4
タイ	1	0	1	2
フィリピン	0	0	1	1
ベトナム	0	2	5	7
マレーシア	0	0	1	1
ラオス	1	0	0	1
インド	0	0	5	5
スリランカ	0	0	1	1
ネパール	0	1	0	1
オーストラリア	0	0	1	1
ニュージーランド	1	0	0	1
カナダ	0	0	3	3
米国	0	0	3	3
ブラジル	0	2	2	4
オーストリア	0	0	1	1
スペイン	1	0	0	1
デンマーク	0	0	1	1
ドイツ	0	0	1	1
ウクライナ	0	0	1	1
ウズベキスタン	0	0	1	1
チェコ	0	0	1	1
ハンガリー	0	0	1	1
ブルガリア	0	0	1	1
ベラルーシ	0	1	0	1
ユーゴスラヴィア	0	0	1	1
リトアニア	0	1	0	1
ロシア	1	0	2	3
イエメン	1	0	0	1
イスラエル	0	0	1	1
エジプト	0	0	1	1
マダガスカル	0	0	1	1
トンガ	1	0	0	1
合計	9	13	66	88

種類です。

各研修プログラムに共通の申請用紙は、国際交流基金の海外事務所または在外公館（日本大使館、総領事館）で入手できます。申請用紙に添付されている説明書にしたがって必要事項を記入し、12月1日(例年)までに国際交流基金海外事務所または在外公館に提出してください。

課外プログラム

研修の目的は、日本語の習得だけではありません。日本人と交流したり、日本の生活に触れること、そして日本の文化や社会を理解することが大切です。センターの内外でのさまざまな出会いを関西国際センターでは工夫をしています。そ



行啓：昨年11月には、皇太子ご視察になられました(上) 和服でお迎えする研修参加者の皆さん(右)

内外でのさまざまな出会いを関西国際センターでは工夫をしています。そ



の一例として、本年1月15日の成人の日に行われた「ふれあい交流祭」を紹介します。

このイベントは、関西国際センター研修生支援協議会が主催しました。この協議会は、研修参加者と地元の人々との交流を促進しようという目的で地元の方々の努力と熱意で設立された団体です。この日、地元のみなさんがもちつきや折り紙、茶道、日本舞踊などを研修参加者に紹介する一方、研修参加者は来訪の日本人に対し館内を案内したり、自国の文化を写真やビデオを使って紹介したりしました。また、年末のホームステイの際に撮影した写真をもとに研修参加者が企画した展示会も開催しました。当日は、自分達が撮った日本の風景やホスト・ファミリーの写真について会場で説明をしました。この交流祭には約800人が参加し、文化紹介を通じて交流を深



ふれあい交流祭 もちつき

めることができました。研修参加者の写真展「私達が見た冬の日本」を含めたこ

のふれあい交流祭の様子は、国際交流基金のホームページで見ることができます。アドレスは<http://www.jpf.go.jp/>です。

日本語能力試験事業

本稿では研修事業を中心に紹介しましたが、日本語能力試験事業を行う試験課が国際交流基金の本部から移り、今年3月から関西国際センターで仕事を始めました。これを機会に、課としての体制を強化し日本語能力試験

業の一層の充実をはかっていきます。

関西国際センターの連絡先

住所 〒598 0093

大阪府泉南郡田尻町りんくうポート北3 14

Tel. 0724 90 2600

Fax .0724 90 2801

● ● ● 研修参加者の一日 ● ● ●



授業風景

ここで、ある研修参加者の1日を紹介しましょう。大学院生のハナ・ゾパロヴァーさんは、チェコのカレル大学東アジア地域研究所に所属しています。2月12日に来日してから5週間がたち、センターでの生活にもすっかり慣れたようです。

授業は月曜日から金曜日まで毎日あります。今日は月曜日。一週間の始まりです。授業は9時からです。1時間目のホームルームの後、今日は「日本語中級」クラスが2時間。

「文法のクラスで、新しい言葉がたくさんありました。難しい文章がでてくると、だいたいの内容がつかめても



カフェテリアで昼食

具体的に何が書いてあるのかわからなくなります。」とハナさん（以下太字部分はハナさんの発言です）。10時から10時50分、11時から11時50分と2時間の授業を受けた後、カフェテリアで昼食を食べます。ハナさんは日本の食べ物が好きです。

午後は1時20分からまた授業です。

「今日は読む練習をするクラスで、日本のテーブルマナー『正しいお箸の使い方』について読みました。」

授業は3時10分に終わります。授業の後には「勉強したり、近くのデパートへ買い物に行ったりします。料理を作るのが好きなので、その買い物をしに行きます。・・・でも今日は、部屋で勉強です。」

夕食は食堂で食べたり、センターの自炊室で自分で作ったりします。このあいだはチェコ料理を作ったそうです。

「食事の後は勉強したり手紙を書いたりします。夜寝るのはあまり早くなく、昨夜は夜中の2時ごろにベッドに入りました。今日は少し疲れたので早く寝ると思います。」

お疲れさま。明日も勉強がんばってください。



自室で勉強中

研修参加者インタビュー

けん しゅう さん か しゃ



I・フンジェさん(韓国)

研究者 韓国文化政策開発院所属

けんきゅうしゃ かんこくぶんかせいさくかいはいんしゆきぞく

●ではまず、イさんの研究テーマについて教えてください。

文化政策、特に、政府の文化政策についてです。いま、日本の地方文化振興支援政策を研究しています。特別に大阪を中心に。

●センターでの研修生活は、いかがですか？

私は日本語の勉強だけでなく、日本の特徴ある社会とか日本文化とかいろいろなものに興味があります。センターは市内から遠いのでちょっと不便ですけど、土曜日、日曜日には積極的にあちこちに行っ

●まず、マナールさんの研究テーマについて教えてください。

日本の現代文学。特に日本の現代文学の女性作家の作品を通して現代の日本人女性像を研究しています。

●センターでの生活について。宿泊しながら毎日勉強するのはどうですか？

まあ、人によって違いますけど、私は今まで1カ月ぐらい滞在していて、とても楽しい。それはやっぱりいい友達がたくさんできたと、先生も親切な方ばかりだから、ホームシックにはなっていません。

●授業はどうですか。むずかしいですか？

そうですね、大学院生はプレースメントテストをしましたが、これをしていないとだめだと思います。やっぱり日本語のレベルが全然違いますから、3つのクラスに分けて。今まで習っていないところを勉強しているところですが、新しいことだからやっぱりむずかしい。でも、先生の説明を聞いて自分で勉強すれば大丈夫。

ています。でも、勉強のためにはここもいいです。特別に景色がきれいですから。空も市内よりきれいだし、いいところだと思います。

●毎日の授業について。大変ですか？

始めは率直に言って大変でした。けれどもどんどん適応して、今はほんとに楽しみに勉強することができます。まだ、敬語を使うことはむずかしいです。漢字は意味は90%以上わかれますけど、発音は韓国と違いますからむずかしい。新しい単語は前に勉強した言葉を考えてながら少しずつ発音することができるようになりました。

●授業以外に日本語の勉強として何かしていることはありますか。たとえば本を読んだりとか。

もちろんです。私のテキストの順番にそって副教材みたいに選んで読んでいます。それから、会話の練習のために公民館とかいろいろなところで日本人達と

●授業以外に日本語の勉強を自分でしていますか？

図書館に行って、小説を借りたけど、読む時間が全然ないんです。でも時間があれば小説とかいろいろ読みたい。

●勉強以外には何か特にしてありますか？

授業が終わってから、いつも友達といっしょに自転車で散歩したりデパートまで行ったり、アイスクリームを食べに行ったりしています。そういうのが楽しいです。

●この研修の後、エジプトに帰ってから何をやるか決まっていますか？

エジプトに帰ったらそろそろ修士論文を書かなければなりません。テーマは、日本の現代文学です。

●この研修をどういうふうに自分の研究につなげていますか？

そうですね、毎週金曜にカウンセリングがあります。図書館で自分の専門の本や辞典で研究をしています。いろいろな資料を集めたり、暇な時間があったら論文を

話をします。公民館でのスピーチにも参加して、日本の環境教育の実態について話しました。この時は田尻町の小学校にアンケート調査をして、それをもとにスピーチしました。

●この研修は6月までですね。その後の予定は？

韓国文化政策開発院に戻ります。日本語はまだまだですから、帰国後も衛星放送を使って日本語の勉強を続けたいと思います。この研修に来るまでは、自分で本を読むだけしか勉強できませんでしたから、日本語を聞くとか話すとかは今からですね。本格的に勉強していく出発点にしたいと思います。

●最後に日本の印象は？

大阪は印象的でした。大阪の文化は歴史もあるし、日本らしい特徴があったと思います。好きな所は国立民族学博物館。美術館にも何回も行きたいですね。



マナール・エッザフ・イブラーヒムさん(エジプト)

大学院生 カイロ大学文学部 日本語日文学科所属

だいがくいんせい たいがいくがんだくぶ にほんご にほんがくがく かじしよく

ちょっと書いたりしています。ま、日本語だけじゃないけど。

●センターの図書館の方が日本語の資料は集めやすいですか？

集めやすいですよ。もしセンターの図書館になければ、司書の人に聞いて調べてコピーをとったり、違う図書館に連絡をしたり、そういうこともできますから。

●最後に日本の印象を教えてください。

私、日本大好きです。とても暮らしやすい国ですね。センターのまわりは何もないと言っている人もいますが、私はセンターのあるところが大好きですね。静かだし、勉強にとってもいいところ。とにかく私は日本が大好きです。



「日本のいろいろな店」

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」シリーズを使って、初等中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使いました。今回は、日本のいろいろな店を紹介します。



和菓子屋

和菓子とは、日本の菓子のことです。

和菓子は、ふつう、日本茶といっしょに食べます。また、それぞれの季節にあわせて作られる和菓子もあります。茶道でも、和菓子を食べます。

和菓子は、一つから買えます。水分の多い和菓子は、あまり長く持ちませんから、買ったならなるべく早く食べた方がいいです。



弁当屋

弁当屋では、ふつう、15種類から20種類くらいの弁当を売っています。みそ汁や飲み物も売っています。

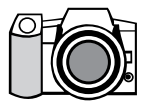
客が注文すると、弁当屋はすぐに作ります。ですから、いつも温かい弁当を食べることができて、とても便利です。レストランで食べるより安いですから、昼休みなどには弁当屋にたくさんの人が並びます。





古本屋

ふるほんや



古本屋は、古い本を買って、それを売る店です。大学の近くには、たいてい古本屋があります。

最近、マンガと音楽のCDとテレビゲームのソフトウェアだけを売る古本屋も増えています。こういう古本屋は、子供や若者でいっぱいです。

東京の神田は、本屋がたくさんあることで有名です。古本屋もたくさんあります。神田の古本屋の前では、たいてい100円から300円くらいの安い古本を売っています。

ディスカウントストア

いろいろなものを、ふつうの店より安く売る店をディスカウントストアといいます。酒、カメラ、靴、電気製品などのディスカウントストアがありますが、これらすべて売っている大きなディスカウントストアもあります。

最近、ディスカウントストアがどんどん増えていますから、ふつうのデパートや店でもいろいろな商品を安く売っています。



売店

ばいてん



売店は、駅や病院の中にある小さな店のことです。店は小さいですが、新聞、雑誌、菓子、飲み物、フィルム、ハンカチなど100種類以上のものを売っています。特急や新幹線のプラットフォームにある売店には、弁当も売っています。

駅の中にある売店は、キオスクといいます。

どこかへ行く途中で買えるので、とても便利です。平日の朝や夕方、通勤や通学の人がたくさん電車に乗るので、とてもこんでいます。

パネルバンクをつかった

教え方の例

おし かた れい

1 パネルをつかって、日本の事情を紹介します。似た店が皆さんの国にある場合には、どこがどのように違うか、説明したり、みんなで考えたりして授業をつくりましょう。

2 「買い物」を初めとして、さまざまなトピックで授業をするときの背景になります。

たとえば古本屋さんのパネルをつかって、お客さんが本を売る人、古本屋さんがそれを買う人になってロールプレイをすることができます。おもしろい会話になりますね。

第二言語習得研究と 日本語教育研究

—— ことばの習得研究：目的・領域・方法 ——

筑波大学教授 岡崎 敏雄

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究についての情報をおとどけています。今回のテーマは第二言語習得研究と日本語教育研究です。

1. 第二言語習得論研究の目的と研究領域

第二言語習得論研究の最終的なゴールは言語学習者の言語能力やコミュニケーション能力がどのようなものであるかを記述し、その記述に基づいて説明することです。このゴールを達成するために、学習者の言葉のサンプルを集めたり、学習者が言葉を使っているときにどのような配慮をしているかを自己報告してもらったり、どのような言葉の形や使い方が正しいと考えるか質問したりします。

四つの研究領域があります。

A. 第一の領域 学習者言語の特徴

学習者の示す言語の特徴を記述する領域です。：(1)誤用、(2)習得の順序、(3)学習者の学習条件による違い (variability) (4)言語の使い方に関わる語用論的特徴に焦点が当てられます。

B. 第二の領域 学習者の外的要因：社会的条件と インプット、インターアクション

社会的条件とは例えば言語教育のプログラムの性格の違い 分離 segregation(学習者は言語的多数派の学習者とは別のプログラムで第二言語を学習したり、第二言語を使って教科を学習する) 母語保持(言語的少数派の第一言語が家庭ではなく教育の場で教えられ、使われることを目的とする) サブマージョン submersion(第二言語学習者はその言語を母語とする学習者が多数を占めるクラスで教えられる) イマージョン immersion(社会的に地位の高い第一言語がその第一言語の学習者だけで構成されるクラスで第二言語を使ってバイリンガルの

先生によって教えられる) 外国語教室(日本で英語が外国語として教えられる)などの違いのことです。どのプログラムのタイプかによって言語学習の進み具合や学習成果が異なっていることが報告されています。

インプットの研究は、第二言語の教室で先生が学習者に向かって用いる言葉が通常のその言語の使い方と違う様子(teacher talk)や、第二言語の学習者と母語話者との間、または第二言語学者同士の間で交わされる談話の特徴の分析などが行われます。インターアクション研究ではまた、小グループの教室活動と教師中心の授業で見られるインターアクションの違い、タスク活動のタイプの違い、例えばあるタスクを達成するために学習者がお互いに情報をやりとりする双方向タスク(two way)か、一方向で情報が伝えられるだけのタスク(one way)かによるインターアクションの違い、またはそこで交わされる、聞き返したり確かめたりしながら進める意味の交渉 negotiation of meaning の違いの研究があります。

C. 第三の領域 学習者の内的要因

内的要因は外から観察することが難しいので学習者の発話や自己報告等をデータとして研究されます。代表的な要因の一つは、言語転移 language transfer と呼ばれるもので、学習者の第一言語の特徴が第二言語を学習する上にどのように取り入れられているかを研究します。目標言語の能力を十分に獲得するまでの過程で学習者が示す中間段階の様々な文法的特徴を扱う中間言語 interlanguage 研究もこの領域の研究です。

D. 第四の領域 学習者

一人ひとりの学習者の違いによってどのように言語習得が異なっているか、また異なった結果をもたらす要因



「おとしまゝ」「かがみもち」の写真や説明があります。

5) 日本人が結婚するとき、結婚式の形式で一番多い宗教は何ですか。

- a. 仏教 b. キリスト教 c. 神道

答え.....b. キリスト教

解説：日本で行われる結婚式のうち、キリスト教は約59.5%、神道は33.3%、仏教は1.1%です。

〔三和銀行調べ 1997年10月〕

漢字のなぞなぞ

漢字の学習が少し進んだときに、次のようななぞなぞをしてはどうでしょうか。なぞなぞを使って、漢字の形と意味を確認することができます。漢字の形は学習者にとってなかなか覚えにくいものですが、なぞなぞにすると覚えやすくなるでしょう。また、学習者にとって、なぞなぞの日本語が難しすぎる場合は、母語でなぞなぞを作ってもいいと思います。

1) 太陽(お日さま)と月が会いました。どうなりましたか。

答え.....明るくなりました(日+月=明)

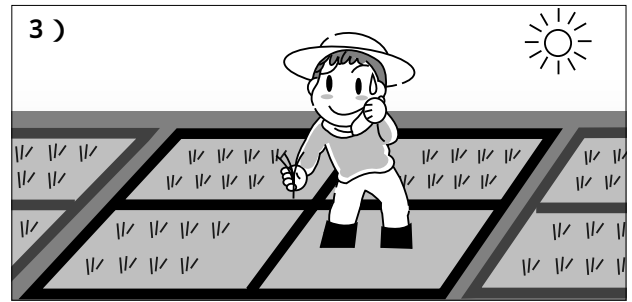
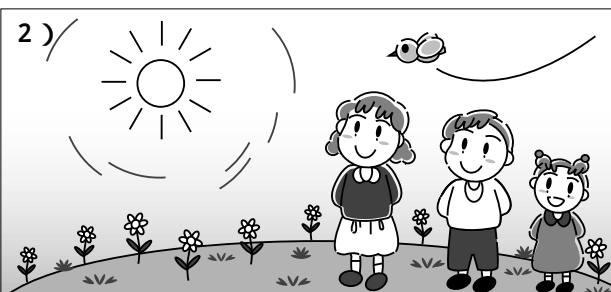
2) 三人で太陽(お日さま)を見えています。どんな季節ですか。

答え.....春(三+人+日=春)

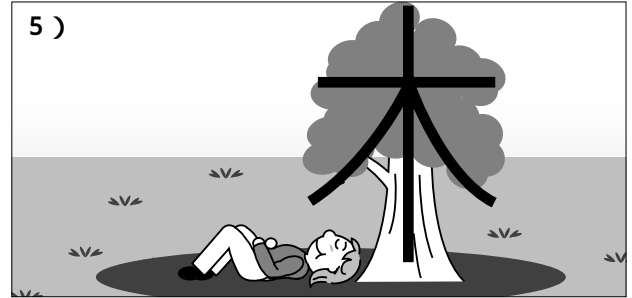
3) 田んぼで力を出して働く人はだれですか。

答え.....男の人(田+力=男)

4) 森の中から木が一本ぬすまれました。どうなりましたか。



5)



答え.....林になりました(森-木=林)

5) 木の横にいる人は何をしていますか。

答え.....休んでいます(人+木=休)

6) 十月十日に赤ちゃんが生まれました。一日のうちのいつごろですか。

答え.....朝(十+日+十+月=朝)

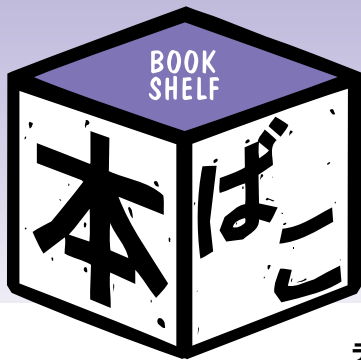
このような漢字の形と意味についてのなぞなぞは日本人の小学生が漢字を覚えるときによく使います。日本事情のクイズと同じように、漢字のなぞなぞも学習者に作らせてみるといいでしょう。先生も気がつかないかもしれないなぞなぞができるかもしれません。

参考文献

1. 朝日新聞社『朝日新聞ジャパン・アルマナック (Japan Almanac) 1998』(1997)
2. 朝日新聞社『ジュニア朝日年鑑1997・1998』(1997)
3. 栗岩英雄『たのしくわかる授業小一から小六漢字学習のアイデア』小学館(1994)

クイズやなぞなぞは、答えるだけでなく、作るのも楽しいです。また、自分たちで作ったものはいつまでもよく覚えています。みなさんやみなさんの学習者のすばらしい作品を送ってください。

このコーナーの担当者：北村武士、八田直美(日本語国際センター専任講師)



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」また、「知っているると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 1 著書 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 ページ数 6 定価 7 その他

年少の学習者と教師がいっしょに楽しめる教室活動の本

『Bits and Pieces — 日本語教材・アクティビティ集』

データ

1 日本国際ナショナルスクール 協議会 2 講談社国際ナショナル (〒112 0013 東京都文京区音羽1 17 14 / TEL. 03 3944 6493 FAX. 03 3944 6394 3 1997年 8月 11日 4 4 7700 2029 5 188ページ 6 2,625円

学習者中心の教室活動

この本は、日本国内で6歳から18歳までの学習者に日本語を教えている国際ナショナルスクールの先生方が書いた教室活動の本です。日本語のクラスでは教師の小さな工夫がきっかけになってクラスの雰囲気が変わることがよくあります。特に年少者を教えるクラスでは、教師の教え方の工夫が、学習効果を上げ

ることに結びつきやすいと言えるでしょう。この本は、学習者が積極的に授業に参加できるように考えること、つまり学習者中心の考え方を大切にした授業の実践から生まれました。

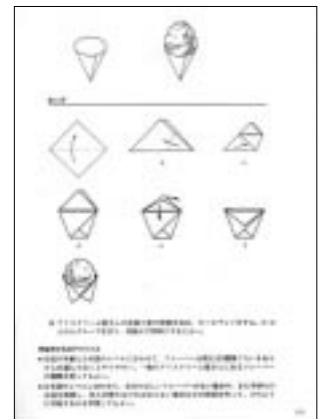
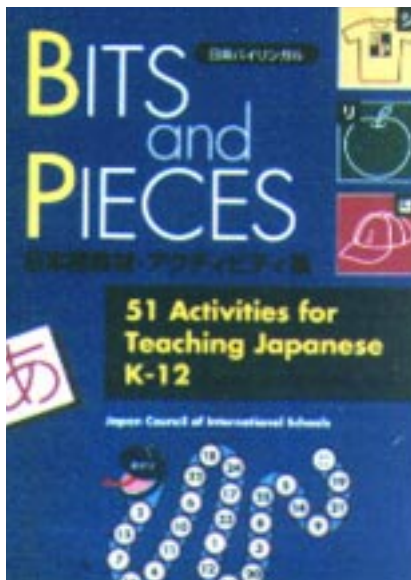
学習者を引きつけるためのヒントも

全体の構成は、前半が英語、後半が日本語の2部構成で、51の教室活動について同じ内容が2つの言語で書かれています。それぞれの教室活動は「アクティビティのねらい」「重要な表現」「学習者の日本語レベル」「学習者の年齢」「所要時間」「あらかじめ必要な知識」「準備するもの」「進め方」「先生方からのアドバイス」の順で紹介されています。教室活動の種類は、文字や語彙などを覚えるためのゲーム、文型定着のための練習、ロールプレイ、絵本の作成、俳句作りなど、さまざまです。これらの活動の中には読者のみなさんがすでに知っているものもあるかもしれませんが、この本がこれまでの教室活動集と違うところは、手順の複雑な活動がないことと、経験のある先生方ならではの具体的なアドバイスが載っている点です。アドバイスには、学習者を引きつけるためのヒントや、練習することばについての大切な情報などがあります。これらを参考に授業を行うと、効果的な楽しい授業になるでしょう。

この本の巻末には「学習者の日本語レベル」「学習者の年齢」「所要時間」「アクティビティの用途」による索引がついています。また、コピーして使える教材も付録としてついています。この本は索引の分類が示すとおり使うこともできますが、ゲームの仕組みや考え方を借りて自分の学習者に合った方法に変えて使うこともできます。成人の学習者に日本語を教えるのにも参考になることがたくさんあります。



P. 120



P. 121

いろいろな応用のしかた

日本人の生活の歴史と現状を目で見る写真教材

『写真でみる20世紀の日本1～6 学校と子どもの生活の100年ほか』

データ

■桜井信夫、馬場錬成、藤森陽子、
三浦はじめ、新冬二、三田村信行
PHP研究所(〒102 0075 東京都千
代田区三番町3 10/TEL. 03 3239
6233 FAX. 03 3239 6263) 第1巻
から1997年10月15日 4 569 68061
5、68062 3、68063 1、68064 X、
68065 8、68066 6 各巻40ページ
6全巻で17,640円

過ぎ去ろうとしている20世紀は日本に
とっては社会が大きく変化した時期でも
あります。本書はこの100年間の日本人
の生活の歴史を写真を中心にまとめた
ものです。

どんな人のための教材か

日本人の小学校高学年と中学生がひと
りでも楽しみながら読める写真付きの本
です。

どんな内容・構成か

全部で6巻ありますが、そのうちどれ
か1巻だけでも買うことができます。6
巻のテーマはそれぞれ「学校と子どもの
生活」「科学技術」「衣食住」「乗り物と

交通」「スポーツとレジャー」「暮らしと
世相」となっています。

どの巻も時代区分は同じで、「明治
1900～1912」「大正・昭和初期 1912～
1935」「戦時下 1935～1945」「戦後 1945
～1975」「現代 1975～1996」という順に
なっています。第1巻から第5巻までは、
ページの上半分は写真、下半分は解説文
で、巻末に「年表」と「さくいん」が
ついているという構成です。第6巻はペ
ージの下半分は解説文ではなく、年表が
載っています。

子ども向けなので、文章が読みやすく、
難しい漢字にはふりがながついています。

海外でどのように使うか

本書は写真中心の読み物で、日本語教
育の補助教材として使えます。

たとえば次のような使い方があります。

①中上級クラスの日本語学習補助教材として

写真を見て、自国の歴史と比べて、デ
ィスカッションなどの教室活動を行ったり、
話し合ったことを短い文章にまとめさせ
たりしていけば、4技能を統合的に学習
できます。

また、トピックが一つ一つ短く区切ら
れているので、学習者にとって興味があ
ります。

りそうなトピックを選んで、読解用教材
として使うことができます。(ただし、
本書には語彙リストがついていないので、
海外で使用する場合には、翻訳付語彙リ
ストの作成が必要になると思います)。

②日本事情教材として

テーマが近代・現代の日本社会の各方
面にわたるものなので、大学・大学院の
日本語科、日本研究科などで、日本事情
用教材として使うことができます。解説
の部分を学習者の日本語のレベルに合わ
せて易しい日本語に書き直したり、自国
語に訳したりすれば、学習対象がもっと
広がるでしょう。



第3巻 P.24～25

③教師の参考資料として

日本事情を教えるのにどんな素材を集
めたいかということを考えるとき、
本書に収められた写真からヒントが得ら
れます。日本歴史の資料集としても活用
できます。



第3巻 P.11



pp.18～21は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

前田綱紀、坪山由美子、百瀬侑子、木山登茂子、木谷直之、高偉建

日本語・日本語教育に関する基本的な用語の意味がわかる事典

『はじめての日本語教育 [基本用語事典]』

データ

■高見澤孟、伊藤博文、ハント蔭山
 裕子、池田悠子、西川寿美 ■アスク講
 談社 〒162 0822 東京都新宿区下宮
 比町2 6 / TEL. 03 3267 6866 FAX.
 03 3267 4471) 発売元:凡人社 〒
 102 0093 東京都千代田区平河町1 3
 13 菱進平河町ビル1F / TEL. 03
 3263 3959 FAX. 03 3470 2129
 1997年11月15日 44 87217 061 X
 274ページ 625円

本書は、日本語学、日本語教育学、及
 び日本語教育関連分野の基礎的・基本的
 な用語を解説した事典です。いずれも日
 本語教師にとって必要と思われる用語
 が収集されています。

全体は、本編(1~13章) 付録(参
 考図書ガイド) 索引(日本語・英語)

から構成されています。13章の内容と取
 り上げられている用語数は次の通りです。

- ①教授法(79) ②コースデザイン/教材
- (31) ③評価(42) ④音声(93) ⑤文法
- (129) ⑥文字/表記(38) ⑦語彙/意
- 味(37) ⑧言語学(66) ⑨社会言語学
- (61) ⑩第二言語習得/バイリンガリズ
- ム(61) ⑪異文化間教育(40) ⑫日本語
- 史/日本語学史(81) ⑬日本語教育史/
- 日本語教育事情(18) 計776語

各用語は、2~18行程度の長さでわか
 りやすく解説されているので、調べたい
 用語の意味を簡単に知ることができます。
 したがって、とりあえずその用語の意
 を知りたい人には便利な本です。用語に
 よっては、英語訳、類義語・同義語、説
 明文の専門用語解説(語句説明)も付
 いています。

各用語についてさらに詳しい知識を得
 たい人のために、付録に「参考図書ガイ

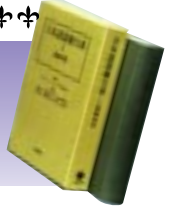
ド」が付いています。
 ノンネイティブ日本語教師の場合は、
 巻末の英語索引を手がかりにして、その
 用語を日本語ではどのようにいえばいい
 が知りたいときに役立つと思います。

P.45

14 本教材 authentic materials
 日本語話の社会や実用に使われているものを引用した資料。上記の理解では、新聞、雑誌、
 書籍あるいはテレビ番組など、本物の教材とする。本物の教材にするが、本物の教材を使う
 レポートの作成が目的でなく、本物の教材を教材として用いる。学習者は、本物の教材を
 それぞれの授業で使うことを目的として用いているので、授業に「本物」が使
 用されることを喜び、学習意欲も高まる。その意味で、どのレベルの授業でも教師は機
 会のあるごとに本物の教材を授業に用いることが望ましい。本物の教材(本)とも呼ばれる。
15 本教材 authentic materials 意味の理解や学習として本物の教材を用いるので使わ
 れる本物の教材が、生動の教材として用いられることである。
 レポート real: 教材の中で本物の教材は特にレポートとも呼ばれる。

18 直接法 direct method
 媒介語(○)を使わず、目標言語(○)だけを使って外国語を教える教授法の総称。伝統
 的な「文法訳法(1919)」に対する反動から、口頭語能力の向上を目指して19世紀
 から20世紀初頭に於いて開発された教授法の多くが直接法に属している。これは基本的
 には幼児が母語(○)を習得するのと同じ方法で外国語を学習させようとしている。言語
 の意味は実物や絵、動作などを通して紹介し、文法は帰納的(○)に学習させるなどの特
 徴がある。日本語教育では、学習者の母語がばらばらで、媒介語の使用が不可能なクラス
 で使われている例が多い。
19 媒介語 外国語教育で意味や文法の説明に使われる言語。通常は学習者の母語が使われる。
20 目標言語 target language 学習の対象になっている言語。(10-3) 年第一言語 (10-5)
21 母語 mother tongue 幼児が最初に習得する言語。(10-3) 年第一言語 (10-5)
22 直接法 多くの事例に倣って、そのルールを見習う学習法。これに対してルールを説明
 してから事例を学ばせるような学習方法は、**間接法**と云う。

P.10



日本語の語彙、文型を網羅的に体系化する
 『日本語語彙大系』

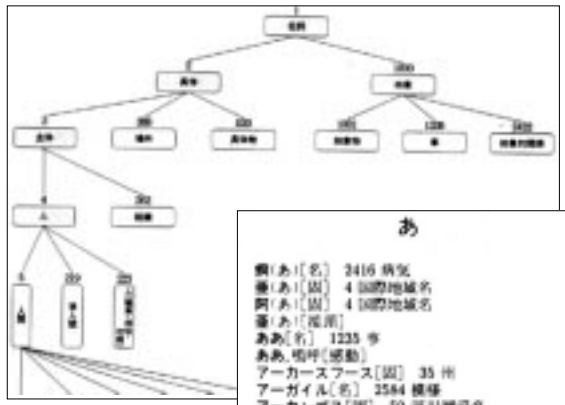
データ

■池原悟、宮崎正弘、白井諭、横尾昭
 男、中岩浩巳、小倉健太郎、大山芳史、
 林良彦 ■岩波書店 〒101 0003 東京
 都千代田区一ツ橋2 5 5 TEL. 03
 5210 4000 FAX. 03 5210 4005
 1997年9月26日 44 00 009884 5
 846ページ 全5冊 84,000円

この『大系』は、コンピュータによる
 日英機械翻訳システムの研究成果の一部
 を辞書の形にしたものです。全部で5冊
 あります。内容は、大きくは3種類で、
 「意味体系」、「単語体系」と「構文体系」
 です。それぞれ簡単に説明します。
 まず意味体系の巻は、二つの項目から
 成っています。一つは、単語の意味属性
 を体系化し示した部分です(図1参照)。
 意味属性というのは、約30万の日本語の
 単語を意味から考え2715の要素に抽象化

したものです。もう一つは、体言の意味
 属性別の単語表と、用言の意味属性別の
 文型表です。次に単語体系では、約30万
 の見出し語のそれぞれに対し、意味体系
 で示された意味属性が示されています。
 これにより、ある単語が意味体系のどこ
 に位置するかがわかります。なお見出し
 語には、人名、地名を含む大量の固有名
 詞が取り上げられています。最後の構文
 体系は、6000語の用言がとる文型(一般
 文型11500件、慣用表現文型
 3300件)と、それに対応する
 英語の文型が示されています。
 文型では、ある文型のある部
 分で用いられる語が意味属
 性で示されています。そのた
 めある文型のある部分で使え
 る単語群が、具体的には何で
 あるかを知ることができます。
 なお最後に日本語と英語の索

引があります。
 最後に、この『大系』の利用法の例を
 挙げます。たとえばある用言について、
 それを含む適切な文を作成する際に利用
 できます。それに対応する英文もわかり
 ます。また意味体系と単語体系を組み合
 わせると、用法の似た単語を検索するこ
 とができます。
 文型を網羅したという点が本書の大き
 な特徴でしょう。



第1巻 P.133

第2巻 P.1

海外日本語教育

かい がい に ほん ご きょう いく

Q & A

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q 日本で制作・出版された初級用教科書を使って海外で日本語を教える場合には、どのような注意が必要ですか。また、使うときにどのような工夫をすればいいですか。

A 教科書はそれぞれのコースの目的や学習者に合わせて作るのが理想的です。しかし、現実にはいろいろな理由から自分の機関では作らずに、出版されている教科書を買って使うことが多いようです。今回は、日本で制作された初級用日本語教科書を海外の現場に合わせて使うにはどうすればいいか考えてみたいと思います。

日本で作られた教科書の特徴

まず、日本の教科書の特徴をつかんでおきましょう。

対象とする学習者について

普通、日本の教科書は、日本で日本語を学ぶ人々を対象に制作されています。日本での学習者は、日本語を毎日使う機会がありますし、日本の社会・文化についても、基礎的な知識を持っています。また、今後も生活を通していろいろな体験をすることができます。しかし、海外の初級学習者の多くは、教室の外で日本語を使う機会はあまりありません。また、日本へ行ったことのない学習者が多いだろうと思います。

日本語による説明

日本の教科書は、文法解説、練習問題の指示が日本語で書かれていることが多いので、海外における初級前半段階の学習者には負担が重いと思います。

最近では、少数ですが、英語以外の言語（たとえば、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語など）で説明・解説のある教科書も出版されています。

例：海外技術者研修協会編『新日本語の基礎Ⅰ、Ⅱ』
文化外国語専門学校編『文化初級日本語Ⅰ、Ⅱ』

取り上げられている場面

日本で作られた教科書の会話文を見ると、日本の生活や仕事に必要な場面が多く見受けられます。したがって、日本語使用場面が日本とは異なる海外の学習者にとっては、現実的、実際のではない場面もあります。

比較文化的要素

日本の教科書の場合、著者のほとんどは日本人です。日本文化についても日本人の視点から見て、外国人学習者に必要だと思われる要素が選ばれています。一方、海外の日本語を母語としないノンネイティブ教師（以下NNT）やそこに長く住んでいる日本人が作った教科書はその国の文化と日本文化が対照的に述べられているという特徴があります。

図1はニュージーランドの教科書です。自国と日本が対照的に述べられています。



図1 “Getting there in Japanese ~ Land & People ~” (Heinemann Education, 1994年) p.17より

日本人教師用に行っている

日本の教科書は多くの場合、日本人教師（NT）が使うことを前提に作られているので、NNTには使いにくい点があります。たとえば、教師用指導書は、普通、日本語で書かれていますし、説明内容もNT向けなので、NNTには理解しにくいことがあるでしょう。

海外の現場で使う場合の工夫

日本の教科書をNNTが海外で使う際には、いろいろな工夫が必要になります。工夫例をいくつか紹介します。

学習者に親しみやすい地名・人名に置きかえる

文中に出てくる地名・人名などを学習者に身近なものにかえれば、親しみやすくなるでしょう。これは、すでに大勢の先生方が試していることだと思います。

学習者の日本語使用場面を考えて場面設定をする

自分の学習者が学校内・学校外のどのような場面で日本語を使うか（学習者の日本語使用場面）を十分に知っておく必要があります。学習者の日本語使用場面（現在と将来の）を考えながら、教科書に出てくる会話の場面設定を自分の学習者に合わせてかえれば、より実際的な会話練習ができるだけでなく、学習意欲をも高めることができます。

☞ 図2は韓国の教科書です。設定場面に注目してください。



図2 『日本語I』（志学社、1996年）p.46-47より

文化についての説明をわかりやすくする

日本文化に直接触れる機会が少ない海外の学習者に対しては、ことばの背景にある文化の説明をわかりやすくすることが必要です。使用している市販教材に文化的な要素が少ない場合は教師がそれを補うことが必要になります。

☞ 図3はオーストラリアの教科書の文化紹介の例です。

視聴覚教材を効果的に使う

日本の学習者のように毎日いろいろな言語体験、文化

体験ができないので、それを補うために、教科書のテーマと関係がある視聴覚教材（写真、音声テープ、ビデオなど）を利用して、わかりやすい授業をすることも大切です。

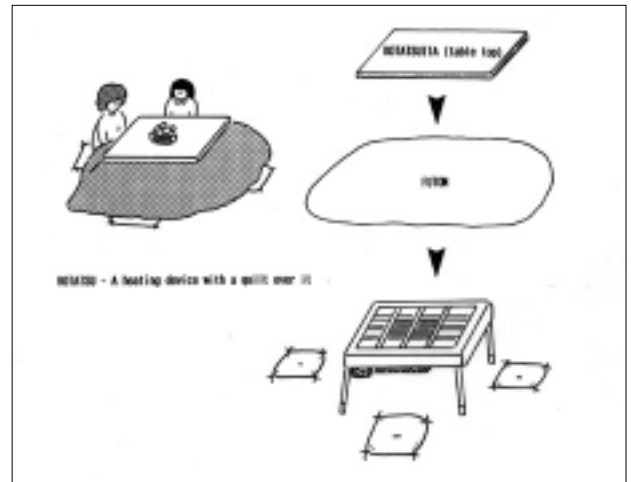


図3 “ISSHONI” (MORETON BAY PUBLISHING、1990年) p.89より

母語・共通語との対照の観点を入れた文法説明をする

海外の現場では、学習者の母語・共通語が日本の現場ほど多様ではないので、教師が学習者の母語・共通語と日本語を対照させて説明できるという利点があります。ぜひ、日本語との対照を効果的に行って、わかりやすい文法説明をしてみてください。

対訳付き語彙リストを作る

母語または共通語の「対訳付き語彙リスト」を作成すれば、学習者が自分で予習することができますし、単語を覚えるときの手助けにもなります。

教室活動に必要な副教材を作る

練習帳、教室活動集などの付属教材が付いていない教科書を使う場合は、教師がそれらを作ることが必要です。教室活動を考えるときに参考になる本の例を以下にあげます。

- 『日本語コミュニケーションゲーム80』（1993）The Japan Times
- 『クラス活動集 101 新日本語の基礎 I 準拠』（1994）スリーエーネットワーク
- 『続クラス活動集 131 新日本語の基礎 II 準拠』（1996）スリーエーネットワーク
- 『日英バイリンガルBITS and PIECES 日本語教材・アクティビティ集』（1997）講談社インターナショナル

以上を参考にしながら、いろいろ工夫してみてください。

担当：百瀬侑子（日本語国際センター専任講師）

NEWS NEWS NEWS ニュース

『初心者のための日本語講座開設 マニュアル』ホームページ完成

近年、世界中いろいろな所で日本語教育が行われるようになってきています。それに伴って、日本語教育に全く経験のない方々が日本語教育に携わるケースが増えてきています。このマニュアルは、こうしたいわば日本語講座担当初心者・日本語教師初心者の要望に応じて、講座開設のひとつの参考資料として和英両語で作成したものです。

今般、今後予想される個人需要に応えるために、本書をデジタル画像処理し、インターネットにより全世界に配信することに致しました。ホームページのアドレスはhttp://www.jpf.go.jp/j/learn_j/edu_j/urawa_j/manual/です。また、国際交流基金のホームページともリンクしています。

本書は無料で自由にダウンロードおよび複製ができるようになっておりますので、本書が世界各地で新しく日本語教育に携わる方々のお役に立つことを心より願っています。

問い合わせ先

国際交流基金日本語国際センター
制作事業課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36
TEL +81 48 834 1183
FAX +81 48 831 7846

ここに掲載するニュースは、国際交流基金日本語国際センターが入手した日本語教育に関する情報の一部です。各ニュースについて、問い合わせ先がわかっている場合には明記してありますので、詳細はそちらへお尋ねください。

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

1997年度日本語能力試験の 結果について

昨年12月7日(日)に国際交流基金と財団法人日本国際教育協会が共催した1997年度日本語能力試験の結果がまとまりました。試験は日本国外30の国・地域、71都市と日本国内6地域で行われ、日本国外で77,456人(前年度比約9%増)、日本国内で26,623人(同約5%増)が受験しました。

各級の受験者数、認定者数、平均点は、別表のとおりです。なお、1998年度の日本語能力試験は12月6日(日)に実施される予定です。

試験実施の詳細について問い合わせ先国外:

国際交流基金関西国際センター試験課
〒598 0093 大阪府泉南郡田尻町
りんくうポート北3 14
TEL: 0724 90 2603

E-Mail: LDL02720@niftyserve.or.jp

国内:

	受験者数(人) A	認定者数(人) B	認定率(%) B/A	平均点 (400点満点)	
国外	1級	17,145	7,198	42.0	264.2
	2級	20,556	6,967	33.9	217.9
	3級	21,267	10,400	48.9	235.5
	4級	18,488	7,593	41.1	222.3
	小計	77,456	32,158	41.5	
国内	1級	15,932	8,157	51.2	274.0
	2級	5,388	2,417	44.9	231.5
	3級	3,370	2,417	71.7	271.7
	4級	1,933	1,342	69.4	268.1
	小計	26,623	14,333	53.8	
合計	104,079	46,491	44.7		

財団法人日本国際教育協会
事業部日本語・統一試験課

〒153 8503 東京都目黒区駒場4 5 29
TEL: 03 5454 5215

03 5454 5577(24時間テレホンサービス)

『海外日本語教育機関調査』に 対するご協力をお願い

日本語国際センターでは本年、日本国外の日本語教育機関を対象にしたアンケート調査を実施しております。この調査は世界の日本語教育の現状を把握するために実施しているもので、調査結果は報告書にまとめて出版いたします。この『日本語教育通信』をお送りしている日本国外の日本語教育機関の代表者のお手元にも、国際交流基金事務所など各国における調査実施機関からアンケート用紙が送付される予定です。その際にはご協力をお願いいたします。

調査にご協力いただいた機関には関係国・地域の日本語教育機関一覧を掲載した報告書を送付するほか、この『通信』を継続的にお届けします。

なお、この調査は『通信』のメイリングリストの更新を兼ねておりますので回答をいただけなかった機関にはこの『通信』をお送りできなくなる恐れがありますのでご注意ください。

この調査についてのお問い合わせは各国の国際交流基金事務所、日本大使館・総領事館、または日本語国際センター情報交流課(FAX: +81 48 830 1588)までお願いします。

編集部から

この31号から表紙イラストが変わりました。今までの表紙イラストは表紙エッセイの内容と関連していなかったのですが、今回からは表紙エッセイの内容を具体的に表したイラストとなりました。

例えば、この31号の表紙エッセイは、周防正行監督に大ヒットした映画『Shall we ダンス?』について書いていただきました。そして、そのエッセイの内容をもとにしてできあがったのが「ダンスの練習場の風景」というイラストです。

表紙エッセイは、毎号、日本の各分野で活躍されている方々に、いろいろな話題についてやさしい日本語で自由に書いて

いただいています。表紙エッセイは、読んで楽しく、また授業の教材としても使えるため、『日本語教育通信』の人気コーナーとなっています。

『通信』編集部としては、表紙エッセイがより分かりやすく、また授業の教材としても使いやすくなるようにと考えて、エッセイとイラストの内容を関連づけることにしました。

表紙イラストと表紙エッセイに関するご意見、ご感想をお待ちしています。

(情報交流課 平林 豊文)

*編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

『日本語教育通信』 第31号

1998年5月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,
Saitama 336-0002, Japan)
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp
編集協力
財団法人 国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)
© 1998 by The Japan Foundation

(表紙イラスト: 村井宗二)